

防災の日に、福島第一原発事故に思う

(2014.9.1)

福島第一原発事故の一つ一つの事実を繋ぎ合わせると、想像を絶する、生命破壊への道筋があることに気付きます。福島第一原発事故によって日本人は、放射能汚染から逃れることが出来ない環境に曝される事になりました。被曝は取り返しのつかない危険なレベルに向かって拡散しています。福島第一原発から放出される放射能の流出はもう止めることが出来ません。止めようとする真剣な努力もありません。したがって、放射能汚染による生命破壊は、日本だけでなく世界に拡大して行くことになります。

人々は、メディアが真実を伝えていると信じています。それは誤解です。この誤解によって放射能の安全神話が出現します。その結果、放射能は制御されているという思い込みが生まれます。メディアが政府の都合のいい報道をする事は、第二次世界大戦中の戦争報道で、既に証明されています。それにも拘らず福島第一原発事故報道で、再び、メディアに騙されます。メディアは嘘をつかないと信じているからです。ですから簡単に騙されます。不都合は伝えない。都合のいいことだけを伝える。このような「メディアの嘘」を見抜けないのです。その結果、自己破壊に至る道を進むことになります。日本人に限らず人間は、事実を直視したがる傾向があります。自分に都合のいい解釈をする本能があります。これが仇となって自己破壊へと向かう事になります。

福島第一原発事故の本質は、放射能の量(規模)にあります。福島第一原発事故時に現場に存在した放射能の量「うんこ」は、チェルノブイリの100倍を超えます。広島原爆の約10万倍という規模です。原発は、「うんこ」の捨て場のない、トイレなきマンションと言われていいます。「うんこ」とは、主に核燃料と使用済み核燃料のことです。何れにせよ福島第一原発の「うんこ」は、途轍もない量です。日本政府(保安員)が事故直後に公表した福島第一原発の「うんこ」の量は、7.2億テラベクレル(7.2×10^{10} ベクレル)という天文学的数値です。この「うんこ」が野放図状態で日々垂れ流されています。

福島第一原発の「うんこ」が全て外に漏れることになれば、福島第一原発事故は、ホモサピエンス(人間)が経験した「人類史上最大の事故」となります。この恐ろしい指摘がまともにされることは稀です。それどころか、「うんこ」に関する最も基本的な知識が欠落しています。福島第一原発にある「うんこ」が一体何処にあって、どのような状態にあるのか、誰も正確に把握していません。ということで、この事故の最も基本的な事についてさえ分かっている人が誰もいません。

福島第一原発からの放射性物質と放射線の流出は今も続いています。これが進み放射能の累計流出がチェルノブイル原発事故の 100 倍以上となれば、人間の未来の存在は無くなるという認識が必要です。この流出を止めることは、今の科学レベルでは、最早殆ど不可能です。さらに、福島第一原発の正確な実態は分かっていません。ですから手のつけようがありません。従って、人間に明るい未来はないと覚悟した方が賢明です。

日本政府は、福島第一原発事故をチェルノブイル原発事故の約 10%としています。これは、事故直後に福島第一原発から放出された放射線量の推定が根拠になっています。ある一定の時間軸しか考慮されていません。これでは、全体の様子を語ることはできません。政府の発表は、希望的観測に基づいた「安全安心幻想」に過ぎません。その結果、「真の安全安心」は、ドンドン遠ざかって行きます。逆に、放射能はドンドン人間に近づいてきます。

生命に対する破壊は、放射能「うんこ」から環境に放出される放射線と放射性物質によってもたらされます。内部被曝・外部被曝によって放射線が身体の細胞に当たります。それによって細胞に「破壊と変異」が生じます。細胞が死んだり変異するという事です。細胞の死はその個体で終わりますから個体で完結します。しかし、生殖細胞の変異は世代を超えて伝わります。恐ろしいことです。

身体に放射性物質が入る事を内部被曝といいます。内部被曝が起きると最早放射線から逃れる事は出来ません。内部被曝した放射性物質は、排泄されることもあります。しかし、ストロンチウム 90 のように一生の付き合いを覚悟しなくてはならないものもあります。福島第一原発の「うんこ」による内部被曝は、日本の最大の問題です。

これからの被害と破壊を予測する上で、チェルノブイリ原発と福島第一原発の規模の比較は重要です。「うんこ」の量の比較です。チェルノブイリ原発事故からもうすぐ 30 年です。チェルノブイリを知ることによって日本で起きる被害と破壊を知ることになります。対策も少しは見えてくるかもしれません。

政府は、福島第一原発事故からの放射能の放出量を約 9×10^{17} ベクレルと推定しています。チェルノブイルの 10%位です。メディアと学会はそれを追跡しています。共に事故の過小評価に躍起になっています。しかし、これをあざ笑うかの如く、チェルノブイリを超える悲惨な数値が日本の各分野で現れています。

健康の被害として現れた数値は、福島県の子どもの甲状腺癌です。2014 年 6 月 30 日の暫定値では既に 104 人が甲状腺癌やその疑いとされています。通常は百万人に 1~2 人の発生

ですから福島県の数値は正常値の 200 倍になります。チェルノブイリでは、子どもの甲状腺癌は事故の 5 年後から発生しました。福島県では事故の翌年から多発しています。今後数年で 1000 倍になっても驚かない趨勢です。成人の心筋梗塞など筋骨格系疾患も多発しています。この疾患は、チェルノブイリでは事故後 8 年で約 95.6 倍になっています。日本でも成人のこの疾患が多発(顕在化)する可能性が著しく高くなりました。

経済の被害として現れた数値は、東電に投入された資金です。約 20 兆円です。これは、日本の国防費の約 4 倍、国家予算の約 20%、GDP の約 2.5%にもおよびます。これだけの資金を投入しても福島第一原発事故は、一向に収まりません。日本学術会議は、早々(2012 年)に、今の技術では「うんこ」の対応はできないとしています。従って、日本政府は、東電に対し何故かリターンを全く期待できない投資をしています。この中の約半分は金融機関によるもので 3,000 億にも及ぶ金利をとっています。その担保も資金もは結果的に国民が拠出しています。政府の東電に対する資金手当は踏み倒されることになり資金の回収はおろか金利も殆ど見込めません。

国民の財産と基本的人権に対する被害として現れている数値は、土地の生存価値と資産価値です。福島第一原発事故後、共に無価値になりました。放射線汚染によって福島県のほぼ全域が人間が住むことの出来ない土地になりました。福島県のほとんどの土地が「放射線管理区域(年間 5.2mSv 以上)」より放射線量の高い土地になりました。このような土地に人が住むことはできません。従って、土地の生存価値はゼロです。売買も出来ませんから資産価値もゼロです。

帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に指定された地区に住んでいた約 13 万人の避難県民も含め福島県民は、基本的に、生存価値も資産価値も無い土地に住んでいます。土地価値を一瞬にして失った福島県民が、安全を求めて、県外に出る事は資金的に不可能に近いことです。福島県の土地の生存価値と資産価値をゼロにしたのは東電と政府です。しかし、東電は汚染源の放射能について「無主物」という不可解な理屈を持ち出しました。誰の所有物でない「人工物」によって汚染したのだから誰にも責任がないという論理です。何という理不尽な話でしょう。

誰も認めたりませんが、福島第一原発からの「うんこ」の垂れ流しが続く限り、東京を含む関東の大半も福島県と同じ運命を歩むことが予想されます。この地域の土地も放射能汚染によって人間が生活するのに不適切な土地になると考えられます。土地の生存価値と資産価値は、放射能汚染が進めば暴落します。その目安は、5.2mSv/年の汚染です。「放射線管理区域」という分かりやすい基準があるからです。福島第一原発の放射能「うんこ」は、地上からそして地下から(地下水)東京そして関東に運び込まれています。福島第一原発事故

後、東京湾のセシウム 137 の蓄積量が毎年増大している事が端的にそれを表しています。セシウム 137 はその他の未計測の核種の警鐘に過ぎません。

関東東北産の飲食物は、地下水を利用している為、放射能汚染が疑われます。しかし、殆ど無検査ですから安全か否かの判断はできません。例え検査したとしても検査対象はセシウム 137/セシウム 134 に限られています。ストロンチウム 90、プルトニウム 239、トリチウムなどが検索対象に含まれることはほとんどありません。最も危険な核種は殆ど検査されていません。ですから安全は全く担保されていません。飲食物の基準値の設定に科学的な根拠はありません。水道水は、アメリカの約 100 倍に設定されています。日本人が、アメリカ人より放射能耐性が 100 倍高いという根拠は何処にもありません。

不幸にして福島第一原発事故による被害と破壊は拡大しています。放射能の拡散に対する有効な対策は何も取られていないも同然です。今も毎日福島第一原発から数千万ベクレルの放射能という「うんこ」が出ています。毎日 400 トン近くの水が流入しては、地下と海にだだ漏れしています。

ちなみに、500 回以上行われた大気圏内核実験から日本に落下した放射能「うんこ」は平均 50 ベクレル/平方メートル。最大でも約 100 ベクレル/平方メートルです。チェルノブイリ原発事故時でも日本の落花量は約 100 ベクレル/平方メートル程度です。福島第一原発事故による福島県の最大落下放射能は 300 万ベクレル以上/平方メートルです。つまり 6 万倍です。福島県双葉町に至っては、6,836,050 ベクレル/平方メートルです。東京の新宿は、17,318 ベクレル/平方メートルです。新宿でも核実験の約 350 倍です。奥多摩はこの約 4~5 倍降りました。

いつの日か、福島第一原発事故が「人類史上最大の事故」であったということになると思います。それは、ヒトがヒトを滅ぼしたと認識される日です。残念ながら後戻りは出来ません。放射能汚染は不可逆的だからです。放射能による生命の破壊は、福島第一原発事故によって開始されました。基本的にもう手遅れの状況です。救いは、真実を直視する事からしか始まりません。

2014 年 9 月 1 日

所 源亮